

第1回富士市まちづくり活動推進計画第2次実施計画懇話会 議事録

日時：平成30年3月9日（金）19:00～21:00

場所：市庁舎8階 政策会議室

◎出席者（敬称略）

委員：日詰 一幸（静岡大学人文社会科学部長）
守本 尚子（静岡県地域アドバイザー）
山田 芳治（伝法地区まちづくり協議会会長）
諏訪部 富雄（原田地区まちづくり協議会会長）
勝亦 徳明（大淵地区まちづくり協議会会長）
松野 俊一（富士駅北地区まちづくり協議会会長）
大嶋 進（富士川地区まちづくり協議会会長）
松田 幸雄（鷹岡地区まちづくり協議会会長）
神尾 秀彦（社会福祉協議会）
井上 幹世（富士商工会議所）
遠藤 勉（富士市NPO協議会）
内野 浩恵（一般公募）
小楢 和子（一般公募）
細川 久美子（一般公募）
長田 結衣（人材育成講座修了生）
オブザーバー：高野 浩一（市民部長）
事務局：まちづくり課長 ほか2人

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 第2次実施計画懇話会開催要領について
- 4 委員自己紹介
- 5 座長・副座長の選任、挨拶

座長→日詰 一幸 静岡大学人文社会科学部学部長

副座長→守本 尚子 静岡県地域づくりアドバイザー

6 議事（進行：日詰座長）

(1) 地域のかこぶ増進計画（第2次実施計画）について（まちづくり課から説明）

(2) 意見交換・質疑応答

(A 委員)

そもそも、まちづくり協議会は町内会とか生涯学習とか地縁団体の統一した協議会として、NPOとか企業というのは、まちづくり協議会の中には含まれないと考えるのか、将来的には入り込んで地域を作っていくと考えるのかということをお聞きしたい。

(事務局)

まちづくり協議会というのは、各地区の団体の活動についてはそれぞれ尊重しながら、福祉とか安全などの分野ごとに活動が重なる部分もあるところもありますので、そういった部分でまとまる場所は

まとまったり、役員等の人材不足についても解消につながることもあり、まちづくり協議会が取りまとめ役、調整役として、各団体に横串を指して、皆さんで協力していくようにしてくのがまちづくり協議会です。

今日お配りしました、資料編の中にも各地区のまちづくり協議会の組織図が載せてありますけれども、その中には、その地区にある NPO が既に関係団体として入っていたりしている地区もございます。地区の状況も違いますので、地区の活性化のために入っていただいた方がいいところもあれば、何か相談したい時にその都度意見を伺うような関係ということもあるかもしれません。

(A 委員)

そうすると、現在のまちづくり協議会の人たちが、NPO や企業に入ってもらいたい、協力してもらいたいという発想がないと入れないということになりますね。

(事務局)

今は、もしかしたら、まちづくり協議会としても、地域の NPO や企業に協力して欲しいなと思っていることがあったり、一方で、NPO や企業側としても、何か地域にお役に立てることはないかと思っているかもしれません。しかし、お互いに分からないので、どうしていいのかわからないでいる状況となっていて、歩み寄りできていないでいることも考えられます。では、そこをこれからどうしていったらいいかということになりますが、行政側の支援として、まちづくり協議会や商工会議所の方々の意見を聞いたり、お知恵をお借りしながら、まちづくり協議会と NPO や企業とのマッチングができるような仕組みづくりができていければいいなど、第 2 次実施計画の中にも、そういった方々との連携ということも計画のひとつとして載せさせていただいております。

(A 委員)

ということは、第 2 次実施計画期間内にマッチングして、一緒になって何か取り組むというところまでいくかどうかは分からないけれども、その準備段階として、地域と NPO とかが絡むステージを設定するというのが、第 2 次実施計画の中に入っているということでしょうか。

(事務局)

地域のことは地域で解決していくというものは基本的な考えとしてありますが、地域だけでは解決できないことや、外部の方に協力いただいた方が地域が活性化するというのも考えられるので、第 2 次実施計画の工程表の中にも取り組みの一つとして載せてございます。

(座長)

一番望ましいのは、地域で課題を解決するという事だと思しますので、まちづくり協議会とそこにある企業さんですとか NPO さんと連携するというのが自然かなと思います。そこが上手く行っていないということが問題でありますので、どこかで誰かが橋渡しをしていただく必要もあると思います。まちづくり協議会から、こういう地区内の課題があるから NPO や企業に対して、協力いただきたいんですがというようなこともあるかもしれませんが、逆に NPO や企業から一緒にやりませんかという声がかかるかも知れません。そのイニシアティブを誰が取るのかというのは、それぞれの地区によって違うのかなと思いますが、いずれにしても、それぞれがばらばらに活動しては力になりませんから、ひとつの力になるようなベクトル合わせということが必要だと思います。そういうことから、第 2 次実施計画の活動の場・連携において、まちづくり協議会と様々な主体との繋がりをつくるのが目標となっているこ

とだと思えます。小櫛さんがおっしゃったように、いろんな団体が繋がるということはそうすべきであろうかと思えます。

(A 委員)

第1次の時には、富士市全体の中での課題を出したと思うんですけども、各地区においてそれぞれの団体がどのような活動をしているのか、まちづくり協議会がどういったことを行い、地区の課題は何かということ、地区の役員で入っていれば分かるかもしれませんが、そういった役員を離れて一住民になってしまうとなかなか地区の動きというものが見えなくなってしまうのではないかと感じます。例えば地区の方たちが話せる場があって、話し合いをすることによって、お互いの動きや地域の課題が見えてくることもあるんじゃないかと思うんです。是非そういう場を作って欲しいなと思えます。

(事務局)

先ほど説明した世論調査の中にも、地区活動などに参加しやすい環境づくりが必要であるという意見も多かったのですが、参加するためには、地域でどんなことが行われているかということを知ることが大切であります。そのためには、こういう活動を行っています、行いますというPRが重要だと思います。それで、各地区においては、それぞれ情報誌を作成し、全戸配布や回覧を行ってPRをしていただいています。こういうことはこれからも積極的に発信することが大事だと思います。

あと、今年度初めておこないましたが、まちづくり交流会というものを開催いたしました。今年度はまちづくり協議会の役員さんにお越しいただいた形で開催いたしました。これからの検討ということになります。いずれは、役員さん以外の一住民の方にも参加いただけるようなことも考えていかないとならないかなと思っております。

(B 委員)

行政の方にお聞きしたいんですが、将来的に人口減少が進んでいき、AI等の技術が発達すると、現在でも若い方の低所得者の方も増えていますが、低所得者層と高所得者層の二極化が進むと思うんです。更に、現在東京で事業を行っておりますが、高齢者の方が70歳75歳を超えても働いている方も結構いるんです。そんな社会情勢の中で、これから10年20年後にこの仕組みというのかこういうことは維持できるんですか。

(事務局)

この地域の力こぶ増進計画というものは、基本理念として社会情勢に柔軟に対応できる持続可能なコミュニティづくりということになっています。世代が変わっていても地域の力になってくれる方を育てていくことが大切になると思います。実際地区の役員さんと話しをすると、60代70代の役員さんでも仕事をしながらやっていますという方が結構いらっしゃいます。では、どうしたら良いかということになります。今日も大学生の長田さんも来ていただいておりますが、若いうちから、こういうまちづくりに関しての意識付けをしていって、その方たちが富士市を離れて帰ってきたり、就職したとしても、まちづくりというものが土台にあるような意識付けをしていくことが必要だと思います。今年度も高校生に対しても取組をおこなってアプローチしたりして、まちづくりというものをしっかりと自分の中の土台として、まちづくりというものがあって、自分の生活が築けているんだということを意識させることが必要でありますので、今そこに取り組んでいるところです。若い方たちが成長し、大人になった時に次の担い手として生まれてくるのかなと思っております。理想的な部分もあろうかと思えますが、こういったことも着実に進めていかなければ、ご指摘のとおり、10年後20年後にまちづくり活動が続かな

なくなってしまうかもしれません。

(B 委員)

事務局のお二人は、30代前半の時には、積極的に地域活動はされていましたが。

(事務局)

30代の時には、町内会の班長や地区のお祭りの実行委員長をやっておりました。結婚してから住み始めた地域でしたので、知り合いもない中、地域に出て行かなければ仲間作りもできませんので、地区活動には積極的に出ておりました。そこには、同世代の方々も出ていたため、回を重ねるにつれて仲間も増えていきました。そういう仲間ができたこともあったので、その上で、実行委員長の話を引き受けました。困っているときには助けてくれるし、頼めば一緒に汗かいてくれて、お祭りは盛大に実施することができました。それもやはり、地区行事に参加していたことが、結局自分を助けてくれることに繋がったんだなと思っております。

(事務局)

私は今30代なんですけど、町内会活動といいますと、なかなか地区から声が掛からない年代かなと感じています。市の職員でありますので、まちづくり地区班ということで地域のお祭りに参加しております。地区活動に参加したいと思っていてもなかなか参加しづらいと思うこともあります。それはどういうことなのかと考えたときに、やはり、参加した時に誰と繋がった方がいいのか分からないというのがあります。そういったときのマッチングが進んでいくと参加しやすくなって、活発化していくと考えています。

(B 委員)

市の職員なのでという話しでしたが、職員でなかったとしても活動に参加していましたか。

(事務局)

生まれ育った地域では、その土地柄、10代20代から地区行事に参加することがみんな当たり前の地域でしたので、そこに住んでいた時は、地区活動に参加しておりました。

(座長)

まだ、ご質問もあろうかと思いますが、時間の関係もございまして、その当たりで終わりにして、また次回にでもお願いできればと思います。

このあと、今後のスケジュールについて説明をお願いしたいと思います。事務局からお願いします。

(事務局)

今日お配りいたしました、スケジュールでありますけれども、今回の懇話会とまちづくり協議会長様が出席される連絡会を併せたスケジュール案をお示いたします。皆様に関係するところは、本日、第1回目を開催いたしました。年2回を予定しておりますので、上半期の終わりの9月上旬に第2回目を、下半期として2月下旬に第3回目を実施したいと考えております。懇話会を挟むような形で、まちづくり協議会の会長様が集まる連絡会を開きまして、懇話会で出たご意見などを会長様にご報告したり、連絡会において各地区の会長様から出てきたご意見等を、また懇話会でお伝えしていくなどして、26地区の会長様のご意見も懇話会に届くような形にしたいと考えております。詳しい日程が決まり次第お知

らせたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(座長)

何かご質問はございますでしょうか。無いようですので、議事は全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

7 その他、連絡事項 (まちづくり課から連絡)

8 閉会